

水 都 ・ 大 阪 の 創 生

～ 1 5 0 0 年 都 市 の 骨 格 ～

2 0 0 3 年 4 月

社団法人 関西経済同友会

「水都・大阪」委員会

古来大阪は、浪速や攝津等の地名が示すように「水の都」であった。5世紀前半、大川の掘削により国づくりが始まったと伝えられており、日本最古の「1500年都市」と言えよう。我々はここに「1500年都市・大阪」にふさわしい風格のある街の骨格づくりを、ソフト面、ハード面を相互に連関させつつ、中長期目標と短期目標をあわせともに提言する。

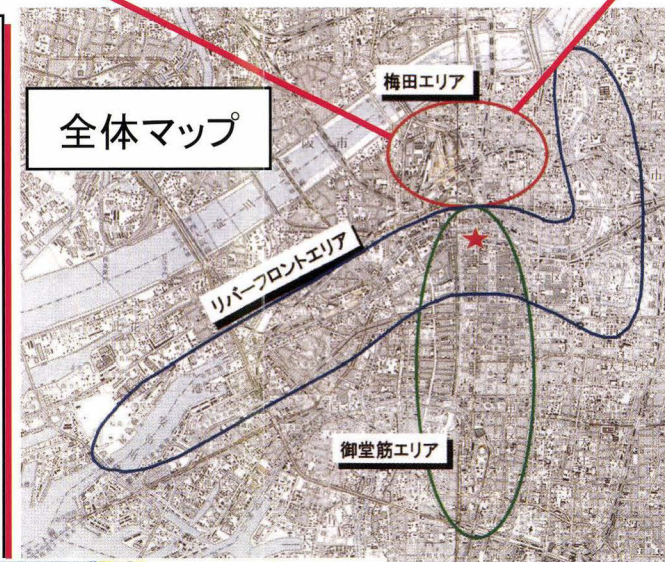
★21世紀の大阪が目指す「水都・大阪」の顔として、大阪駅とその周辺地域には、大阪を訪れる内外の人々に、アメニティあふれる、今から訪れる都市への期待を抱かせる“はじまり”の空間づくりを行うことが望まれる。

・南側広場を「水都・大阪」にふさわしい光と風、緑と花と水をテーマとした人と都市のアメニティを追求した広場に再整備。

- ・大阪駅と東西南北の周辺地区をつなぐ人工デッキ「水の空中回廊」を整備。利便性と一体感を向上し、「水都・大阪」の新名所に。
- ・北新地－北ヤード地区間の道路を「水都モデル街路」として、歩行者を重視した緑と噴水・滝のある通りとして整備。

- ・北ヤード地区を、「知」の結節空間として、大学のサテライト・キャンパスや 関西のリサーチパークが集積するゾーンとして整備。

- ・ターミナル機能の充実
- ・立ち寄り型交流機能の整備
- ・コラボレーション拠点作り



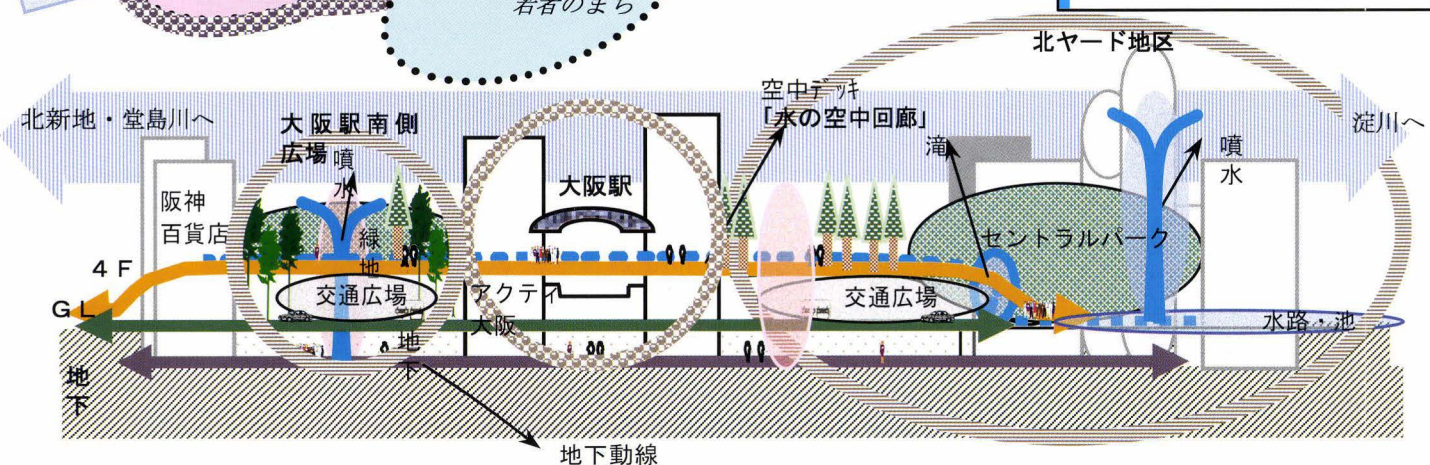
★歴史ある盛り場の「キタ新地」に水都の装いをほどこし、賑わいの復活を図るとともに、大阪の魅力の一つである「食」文化による街おこしを
る。

- ・新地本通りを噴水プロムナード化。夜間のライトアップで雰囲気盛り上げ、賑わいの復活を図る。
- ・しじみ川の復活や水琴窟の設置等、水に関係するものを設置し、水都を演出。

- ・水都の日を制定し、この日に、堂島薬師堂で“お水取り”を創生。厄除け、商売繁盛の年中行事に。
- ・水都の日には、府立・市立の小学校を休みとし、川や川辺の清掃、水泳大会を行い、子供の頃から「水都・大阪」を意識づけ。

・しじみ川のほとりに、水かけ太郎を祀り、良縁結び、商売繁盛、火難厄除を願うとともに、キタ新地のシンボルとする。

・食の街おこし



平成のお水取りのイメージ

しじみ川に見立てた
“新地本通り”

水かけ太郎のポーズ

縁結びの“水かけ太郎”

新地本通りの噴水

新水都創生シンボルタワー

★「水都・大阪」の創生を力強く牽引するシンボルタワーを建設する。

○シンボルタワー

- ・大阪の心臓部に当たる「中之島」と背骨をなす「御堂筋」の交点に新水都創生の象徴としてシンボルタワーを建設。
- ・世界都市・大阪の中心街に相応しい景観を整え、大阪のシンボルとしての情報発信力や、水都を一望する観光スポットとしての役割を担う。

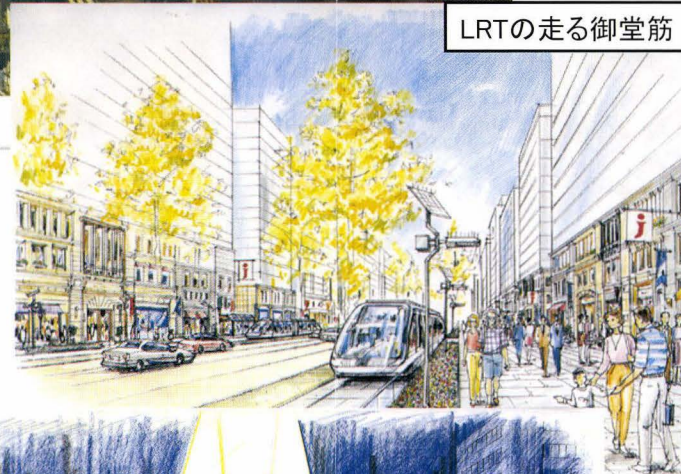


シンボルタワー（近景）

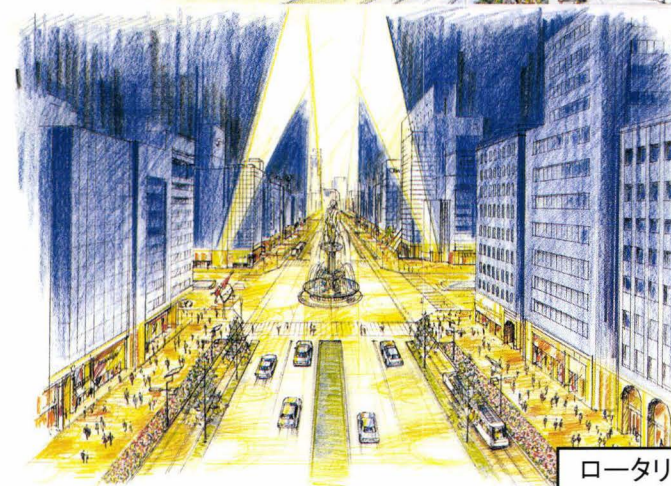
シンボルタワー（遠景）



LRTの走る御堂筋



ロータリーと噴水のある御堂筋



御堂筋の国際ストリート化

★「水都・大阪」を支える「背骨」となる御堂筋を魅力と風格溢れる国際ストリートに仕立て上げる。

○ロータリー型交差点に噴水を

- ・人々が多く集まる御堂筋南域のアクセントとして、ロータリー型交差点を設置。その中心部には、「水都・大阪」を象徴するような大きな噴水を配置し、観光スポットとして、また、人々が憩える場として整備。

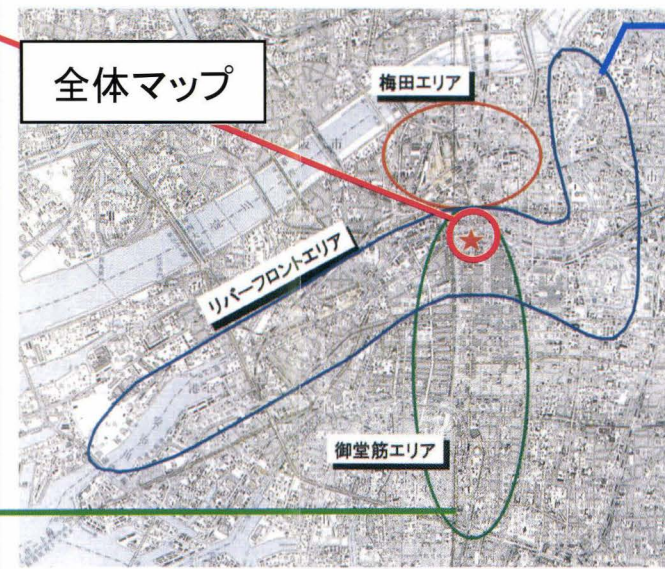
○芸術・文化が香る交流の御堂筋に

- ・大阪の伝統文化、感性の高さを発信する場として「国立織物博物館」を創設。
- ・世界有数のブランドショップ街に。

（その他の施策）・観光LRTの導入

- ・「国立大歴史博物館」の創設（場所は御堂筋に限らない）
- ・大阪市都市再生本部による活性化戦略と高さ規制の撤廃

全体マップ



「リバーフロント」創生

★大川～安治川水系を、賑わいとうるおいのある「水都・大阪」のモデル水系とし、そのリバーフロントを計画的・総合的に再生する。

○大川、堂島川、土佐堀川リバーフロントに魅力的な都心居住空間を

- ・河岸を緩傾斜型堤防に改善し、水と緑のうるおいのある都心居住空間を創出。オープンカフェやレストラン等賑わいの空間も設置。

○安治川リバーサイドにリゾートタウンを

- ・安治川リバーサイドを水辺環境と一体となった面的広域整備を実施し、リゾート調の住宅等を建設。周囲には市民が集まる広場をつくり、風情を醸し出す癒しの空間に。

上記実現のために、規制緩和や地域景観協定の締結、PFIの活用、行政の所掌部門の連携、国際コンペ（IBA方式）等を実施。



ミックスユースト型ビル

人工地盤

車道

遊歩道

リバーフロントの都心居住空間（大川・堂島川・土佐堀川）



リバーサイドリゾートタウン（安治川）

環境先進都市宣言

★「水都・大阪」創生のベースとなる環境と調和した持続可能な循環型社会に向けた取り組みが必要。大阪は、「水都・大阪」の創生を強力に実行していく意志表示として「環境先進都市宣言」を行うべき。

○水質環境の改善

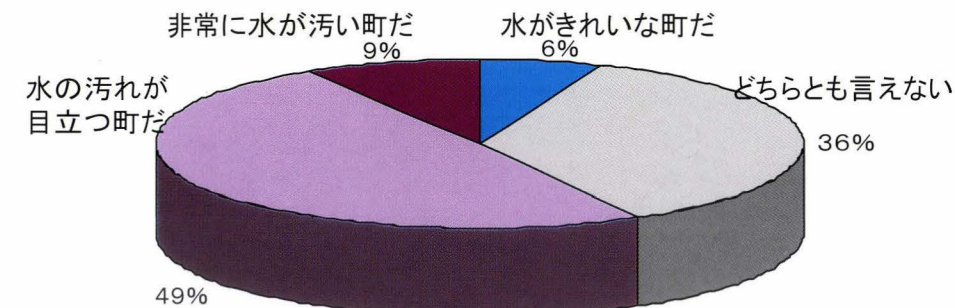
- ・市内河川の汚染要因である上流域の下水道を完備。
- ・既設下水道(合流式)からの汚染防止のための貯留管の整備。

○「都心型環境共生都市」モデルの構築～北ヤード地区～

- ・自然環境を利用したエコロジカルな環境を提供し、親水性をテーマとしたアメニティ効果の高い都市基盤整備を実施。

- (その他の施策)
- ・市民の環境意識の向上

『あなたの住んでいる街は「水がきれいな町だと思いますか？」(大阪編)』
※全国ワースト2位(最下位は埼玉)



なお、「水のきれいさが自慢できる町だ」という回答はなし

the0123引越文化研究所
レポートより

プロデュース戦略(ネットワークの強化)

★水上交通体系の整備を行うとともに、陸上交通体系とのネットワークを強化。併せて、利便性を高めるソフトを検討。

○水上交通体系の整備

- ・短期的には、枚方から八軒家浜、長期的には琵琶湖から大阪湾までの舟運を復活。観光資源や市民の足として活用。
- ・陸上交通とのネットワーク強化を図るため、接点となる場所に魅力ある船着場を整備。
- ・水陸両用車の導入
- ・橋梁の架け替え

(その他の施策)

- ・陸上交通体系の整備
- ・利便性を高める各ソフトの検討

舟運航路



大川沿いの桜と水上交通



プロデュース戦略(情報発信・イベント)

★「水都・大阪」＝魅力と活力に溢れるまち、というイメージを国内外の人々に知ってもらうための情報発信・イベント。

○手塚治虫作「どついたれ」映画化

- ・手塚治虫原作の大阪を舞台にした「どついたれ」の映画化を支援。「どついたれ」勝手連を支援。
- ・作品を大阪で映画化し、水都のシーンをちりばめることで、「水都・大阪」を世界に向けPR。

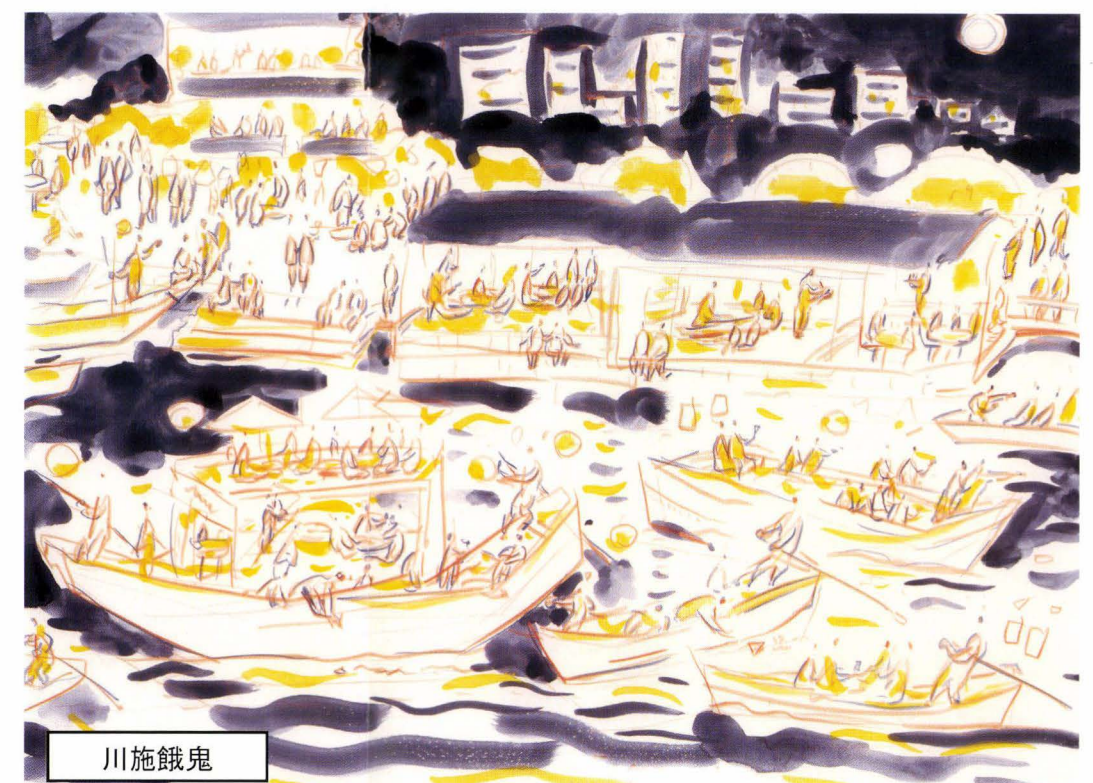
○「観月流し」(川施餓鬼)

- ・大阪の水運の拠点「八軒家」で中秋の名月を楽しむ「観月流し」を創生。
- ・川辺や船上から願い事、歌、供養の施餓鬼を川に流し、観月を楽しむ。

(その他の施策)

- ・シンボルイベント
- ・年間を通じたサイクルイベント
- ・ワールドリハーフェスティバル
- ・「水都・大阪」橋物語
- ・水辺のポテンシャル向上
- ・「水都・大阪」縦断ウルトラクイズ
- ・市民参加型イベント

「どついたれ」のバッジ



川施餓鬼

目次

要約

はじめに 1

「1500年都市 大阪」 2

全体マップ 4

第1章 「はじまりの駅・大阪」創生 5

- (1) 水都・大阪の顔づくりと、南北をつなぐ人の動線づくり
 - ・ 南側広場を「花」と「緑」と「噴水」のオープンスペースに
 - ・ 大阪駅を周辺地域とのネットワーク・コアに
- (2) ターミナル・サービス・ステーションづくり
 - ・ ターミナル機能の充実
 - ・ 立ち寄り型交流機能の整備
- (3) 「知」の発展拠点づくり
 - ・ リサーチ・コンプレックス・ネットワーク・コアの創出
 - ・ クリエイティブ人材とビジネス・インテグレータのコラボレーション拠点づくり

第2章 「キタ新地」創生 10

- (1) もてなしの「キタ新地」創生
 - ・ 物語の舞台～キタ新地～
 - ・ 食の街おこし
- (2) 「キタの歳時記」創生
 - ・ 「水都の日」制定
 - ・ 平成のお水取り
 - ・ 縁結びの“水かけ太郎”

第3章 新水都創生シンボルタワー 18

・ シンボルタワー

第4章 「リバーフロント」創生 20

- (1) 大川～安治川水系 「リバーフロント」創生
 - ・ 大川、堂島川、土佐堀川リバーフロントに魅力的な都心居住空間を
 - ・ 安治川リバーサイドにリゾートタウンを
- (2) 事業促進のための手法および支援方策
 - ・ 規制緩和の推進

	・ 地域景観協定の締結 ・ プロジェクトファイナンスの活用（P F I） ・ 行政の所掌部門の連携 ・ 国際コンペ（I B A方式）の実施	
第5章	御堂筋の国際ストリート化	23
	・ ロータリー型交差点に噴水を ・ 観光L R T（低床式路面電車）の導入 ・ 世界有数のブランドショップ街 ・ 芸術・文化が香る御堂筋に ・ 大阪市都市再生本部による活性化戦略と高さ規制の撤廃	
第6章	環境先進都市宣言	28
	・ 水を活かした「都心型環境共生都市」モデルの構築～北ヤード地区～ ・ 水質環境の改善 ・ 市民の環境意識の向上	
第7章	プロデュース戦略	30
	(1) ネットワークの構築 ・ 水上交通体系の整備 ・ 橋梁の架け替え ・ 陸上交通体系の整備 ・ 利便性を高める各ソフトの検討 (2) 情報発信・イベント ・ 手塚治虫作「どついたれ」映画化 ・ 年間を通じたサイクルイベント ・ 観月流し(川施餓鬼) ・ ワールド リバー フェスティバル ・ 「水都・大阪」橋物語 ・ 水辺のポテンシャル向上 ・ 「水都・大阪」縦断ウルトラクイズ ・ 市民参加型イベント	
工程表（提案）		35
平成14年度「水都・大阪」委員会活動状況		37
平成14年度「水都・大阪」委員会常任委員会名簿		41

はじめに

国際的な競争の中で存在感を示す魅力と活力あふれる都市をつくることが、日本の都市・地域に求められている。各地域は、自らが持つ歴史・文化・景観を再認識し、行政・経済界・市民の知恵をフル活用して魅力あふれる都市づくりに取り組まなければならない。

21世紀は人間中心の都市づくり、すなわち生活の豊かさや知の集積を重視した取り組みが求められている。そのことが、国内・世界から投資を誘引し、観光客・ビジター等交流人口を増やすとともに、地価の下落等で進みつつある都心定住人口の増加を促進する。

関西圏の中核となるべき大阪の再生には、シンボリックな顔づくりと、継続的・長期的な取り組みが必要である。大阪は交通・産業・土地利用等多くの面で水と深く関わってきた。「水都・大阪」創生は、大阪の歴史・文化・アイデンティティそして産業を継承・再評価するものである。そして、時代の新しい潮流をつくる未来に向けた創造的な取り組みである。

2001年12月に「水都・大阪」再生プランが、国の都市再生プロジェクトとして認められた。これまでも、関西経済同友会は、「水都・大阪」創生を行政・経済界・市民が一体となり継続的・長期的に取り組む重要テーマと位置付けてきており、2002年5月には「水都・大阪」委員会を発足させた。

また、2002年9月30日には、水都の魅力を最大限に活かし、花・緑・光にあふれるまちづくりを進め大阪・関西を活性化することを目的に「花と緑・光と水 懇話会」が発足した。本会の取り組みの熱意が実ったものであり、メンバーとして積極的に参画しているところである。「懇話会」以外にも、行政・経済界・NPO・市民等による様々な取り組みが検討・実施されている。

「水都・大阪」創生に向けて、機はまさに熟している。

「１５００年都市 大阪」

日本最古の都市大阪は浪速、攝津、河内、和泉等の名称が今も伝わっているように水の都であったことを示している。

５世紀前半この地に高津宮をおいた仁徳天皇は、大川を堀削し内陸部に溜まっていた内海の水を大阪湾に流すことに成功したと伝えられている。このことにより上町台地の東側に広大な土地が開け生産力が向上して古代河内王朝が栄えることになった。大川堀削はいわば公共工事の第一号であり、大阪の都市形成の原点だったといえる。以来１５００有余年大阪の都市づくりは水路開削と干拓によって行われてきた歴史を持つ。言い換えれば、大阪は日本最古の水の都であり「１５００年都市」なのである。

<「１５００年都市」の骨格づくり>

古代政治都市から始まり、宗教都市、経済都市等の変遷を経て今日に至る大阪には、自ずと都市の骨格が形成されてきた。

この基本骨格を確認し１５００年都市にふさわしい風格を整備することが、迎賓都市をめざす大阪にとって今まさに必要である。

[顔]

大阪の「顔」に当たるところといえば、やはり梅田周辺であろう。

ところが、現代都市の動脈拠点である鉄道駅が新大阪駅と大阪駅に分離されてしまったため、在来線のターミナルである大阪駅の周辺は甚だ迫力を欠くことになり、大阪駅前南側は復興途上都市の様相でさえある。

大阪駅北側の貨物ヤード開発計画を推進するとともに、駅の北側と南側を一体的な回廊とし、水の都の玄関にふさわしい知的な大阪の「顔」としての整備に取り組む必要がある。

さらに「口・喉元」に当たる北新地や堂島は大阪の歴史にとって欠くことの出来ない物語性に充ちた場所であり、格段の称揚が必要である。

[ハート・オブ・オーサカ]

大阪の心臓部は、中之島を含む大川沿いの一帯や大阪城周辺であろう。ここはいわば「ハート・オブ・オーサカ」と呼ぶべき地域であり、この中心地域を、世界に誇りうるユニークな都市美をもつ空間として整備することが必要である。

中之島を心臓部とし、左右に大川・安治川沿いに大きく両手を広げた骨格をイメージしてみたい。

[背骨をなす御堂筋]

御堂筋を世界有数の大通りとして整備することにより、単に北から南へ車が通行するだけの大通りから、大都市の骨格を支える「背骨」としての魅力と風格ある通りへと脱皮させる必要がある。キタから「ハート・オブ・オーサカ」を通り長堀から千日前へとミナミのエンタティメントゾーンにつながる多彩で文化的な大通りが誕生する筈である。

[循環系としての水]

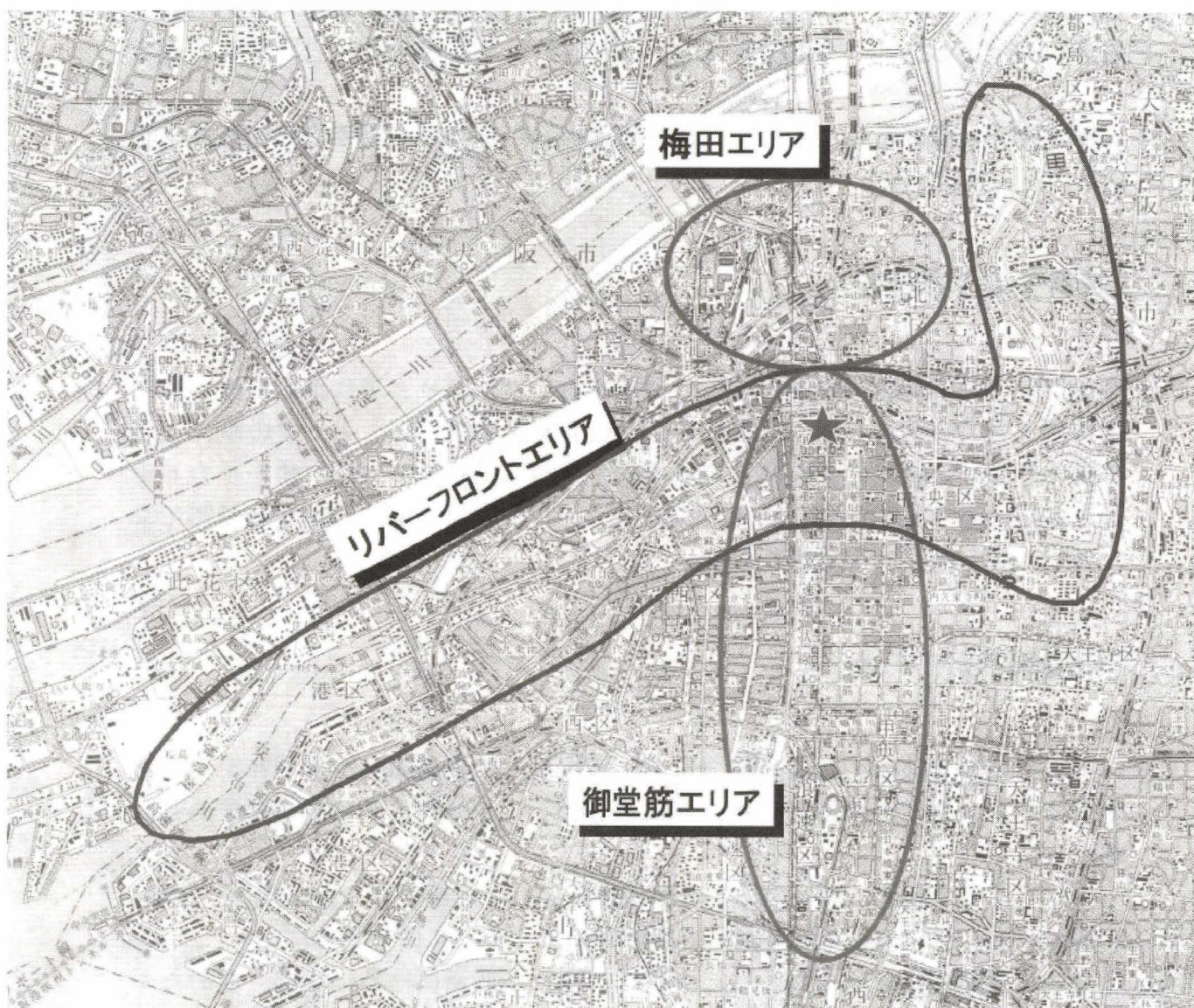
「1500年都市」の骨格をつなぐ「循環系」は都市面積の10%を占める水面であり、水面や水辺の活用、水に親しむライフスタイルの創造が求められる。

今から300年前「天下の貨7分は浪華にあり 浪華の貨7分は舟中にあり」と言われた。日本の富の約5割は大阪の舟の上にあったのである。

かつて経済的繁栄をもたらした水路は、物資が陸送に移るにつれ、埋めたてられ踏みつけられ背を向けられてしまった。ところが、水の多くを失って、我々は水の有難さをようやく認識させられつつある。

風格のある「1500年都市」に水の要素がどれ程大切であるか。単に賑わいをつくるという次元を超えて、川を渡る風、川辺にそよぐ緑、橋の上から見える遠景、空の雲や夕映え、川面に飛び交う鳥の姿、水から跳ねる魚の影。それらの一つ一つが都市格にとってかけがえのない資産である事によりようやく気づかされたのである。

関西経済同友会「水都・大阪」委員会はこちらに「1500年都市大阪」にふさわしい風格ある街の骨格づくりを、ソフト面、ハード面を相互に関連させつつ、中長期目標と短期目標をあわせともに提言するものである。



※ なお、本会は今年 1 月に「大阪城・難波宮」、「御堂筋南域」エリアについての提言
を集客推進関西委員会より発表した。

第1章「はじまりの駅・大阪」創生

21世紀の大阪が目指す「水都・大阪」の顔として、大阪駅とその周辺地域は、大阪を訪れる内外の人々に、アメニティあふれる、今から訪れる都市への期待をふくらませてもらう“はじまり”の空間づくりを行うことが望まれる。

同時に、大阪の未来を象徴する、新しいトライアル空間としての機能を創出する場として、水都として我が国を先導した大阪の文化を現代に再現するとともに、様々な価値観や文化的背景をもつ人々の出会いから生み出される新しい「知」と「粋」を現代的に育むこととする。さらに、大阪がもつ可能性をあまねく発信するとともに、関西が培ってきた「智慧の都」の拠点としての整備を進めなければならない。

(1)「水都・大阪」の顔づくりと、南北をつなぐ人の動線づくり

大阪駅は、大阪都心最大の交通結節点であり、通勤・通学者や周辺地域からの人々が行き交う拠点として、また、遠来からの人を迎え入れる大阪の玄関である。

人々を迎え入れる場として、「水都・大阪」にふさわしい水都を感じさせる空間整備を行う。また、駅を人々のふれあいの場として、大阪駅界隈の一体感と人々の回遊性を確保する。

具体策① 南側広場を「花」と「緑」と「噴水」のオープンスペースに

大阪駅の南側広場は、大阪駅を降り立った人が大阪都心へと出発する重要なはじまりの場である。「水都・大阪」の顔として水都を感じることもできる空間づくりと新名所としての駅づくりが求められる。

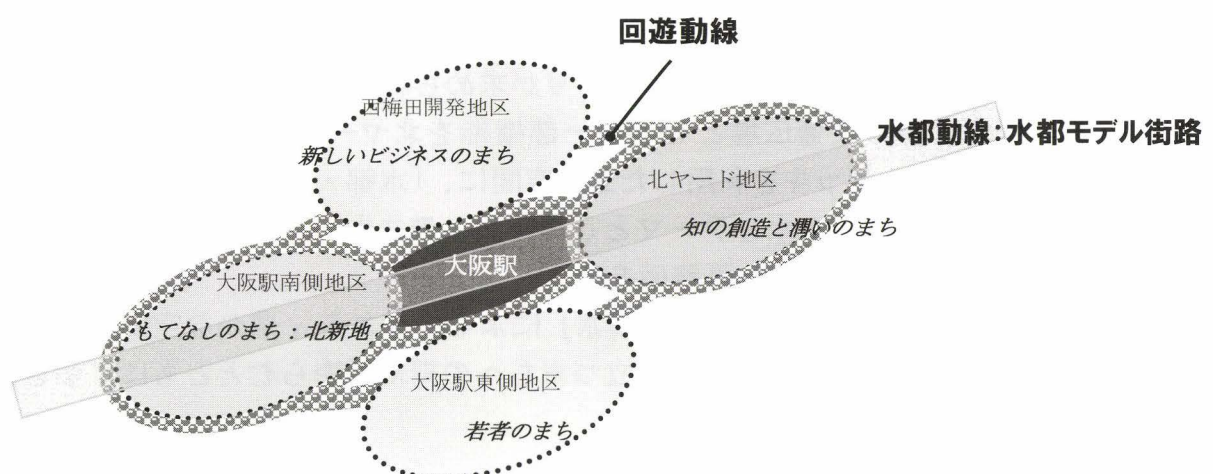
- ・ 南側広場の交通広場としての一部機能を北ヤード地区側に移設し、地下・地上・デッキを利用した立体空間に、「水都・大阪」にふさわしい光と風、緑と花と水をテーマとした自然との共生、人と都市のアメニティを追求した広場へと再整備を行う。
- ・ 人々の眼前に「花」「緑」「噴水」によるアメニティ豊かな空間が広がることにより、これから降り立つまちへの期待が膨らむとともに、歩きたくなるまちへと変貌する。

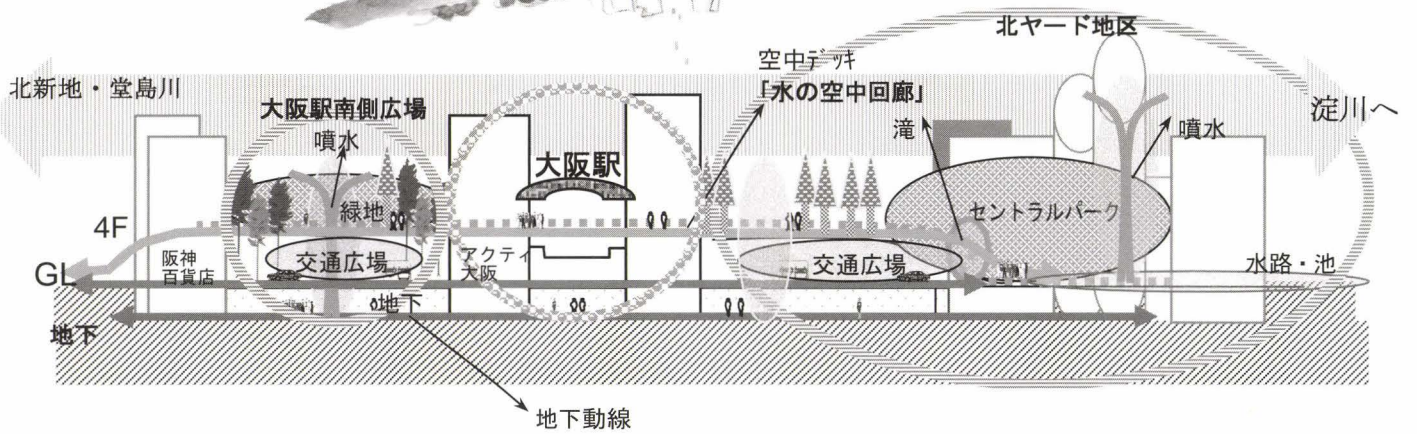
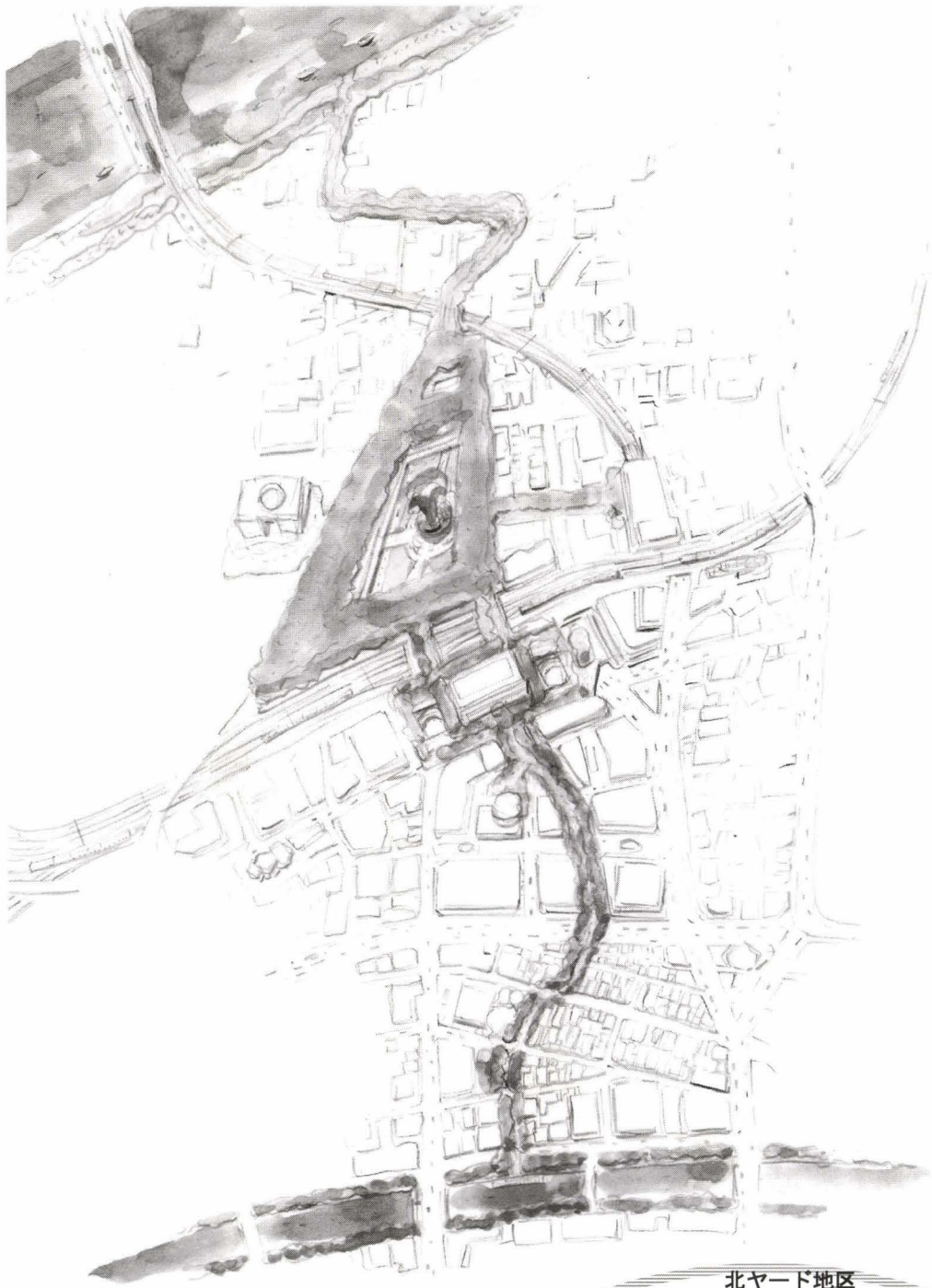
具体策② 大阪駅を周辺地域とのネットワーク・コアに

大阪駅の周辺地域は、“もてなしのまち”北新地のある南側地域、新しいビジネス街である西側地域、若者のまちの東側地域、新しいまちが生まれる北側地域といった個性豊かな地域が各々に展開している。

大阪駅を中心に人工デッキや建物内部、歩行者道路をネットワークさせ、歩行者のスムーズな移動を可能にする。同時に、楽しく歩けるまちづくりを進めるために、緑と噴水・滝・せせらぎ等水のもつ多様な側面を取り入れたアメニティ豊かな歩行者道路の整備を行う。

- ・大阪駅を中心とした東西南北の周辺地区をつなぐ人工デッキ「水の空中回廊」を整備し、ターミナルとしての利便性と一体感を高め、「水都・大阪」の新名所とする。
- ・北ヤード地区から大阪駅の人工デッキを経て北新地に至る道路を、北新地と北ヤード地区を繋いだ歴史から未来への水都動線「水都モデル街路」とし、歩行者を重視した緑と噴水・滝のある通りとして整備する。
- ・大阪駅西口を再整備し、西梅田開発地区と北ヤード地区との新しい結節空間をつくとともに、新梅田シティ、福島駅周辺との新しい回遊性を生み出す。





大阪駅をコアとする地区空間ネットワーク・イメージ

(2) ターミナル・サービス・ステーションづくり

内外から大阪を訪れる人々を迎え入れ、人々がふれあい、人々を送り出す場として、多くの出会いと交流が生まれる「駅」にふさわしいサービス機能を充実し、「水都・大阪」の顔としての利便性と魅力を高める。

具体策① ターミナル機能の充実

人々を迎え入れ都心へと導く「駅」として、インフォメーション機能を充実させるとともに、人々に快適さと安心感を提供する空間を整備する。

- ・ 大阪および関西の各団体・施設と連携してビジネス・観光・文化等を紹介し、滞在サービスを提供するインフォメーション・センターと、各地のイベントや歳時記と連動したミニ・イベント空間を整備する。
- ・ ターミナル駅として乗り換えの良さをさらに高めるとともに、スムーズな乗り換え動線の構築や、美しく機能的でわかりやすいサインを整備する。

具体策② 立ち寄り型交流機能の整備

交通結節点としての場を利用した新しい出会いと交流が生まれる施設や機能の充実により、顔としての魅力を高める。

- ・ 魅力あるレストランやカフェ、待ち時間を利用したビジネス・サービス・オフィス、交通利便性を利用したレンタル会議室、イベントホール・広場等の整備により、駅の交流機能・賑わい機能を高める。
- ・ ショッピングモール、ドラッグストア、ブック・ストア、行政窓口等の整備により日常の利便性を高める。

(3)「知」の発展拠点づくり

大阪駅北側に位置した梅田貨物駅地区・北ヤード地区は、「水都・大阪」の顔として、21世紀の新しい都市に生まれ変わるべき地域である。大阪の未来に向けた「交流・融合知」の創出を目指す水都・智慧の都として、世界に向けた「実業の場」づくりと、内外の知的人材が集うにふさわしいホスピタリティあふれるまちを目指す。

具体策① リサーチ・コンプレックス・ネットワーク・コアの創出

関西学術研究都市や彩都、播磨科学公園都市、神戸医療産業都市等の、関西が世界に誇る「知」の集積の形成・充実が進められている。これらを有機的に連携させ、さらに発展させる近畿リサーチ・コンプレックスの情報発信・発展のコア機能を創出する。

- ・「知」の結節空間として、大学のサテライト・キャンパスやリエゾン・オフィス、関西のリサーチパークや公的研究機関のリエゾン・オフィスが集積するゾーンを整備する。
- ・新しい「交流・融合知」が生まれるプロジェクト創出機能とコラボレーション機能をもったリサーチ・コンプレックス推進機構を整備する。

具体策② クリエイティブ人材とビジネス・インテグレータのコラボレーション拠点づくり

大学や研究機関から生まれるアカデミックな「知」を実業へと発展させることが大阪活性化のための重要なポイントである。このような志ある人々や企業を結びつけ、集積させるための戦略的な仕掛けづくりが必要である。

- ・大学や研究所から生まれる最先端分野の知を交流・融合させビジネスを生み出す人々と投資家とのマッチング・サービスの充実や、新しい企業の進出を促す税や補助等のインセンティブづくりを行う。
- ・外資系企業等も視野に入れた国際的生活拠点として、都市生活を楽しむための生活全般を支えるライフサポートサービスの充実や、ライフスタイルにマッチした居住空間の整備を行うとともに、新しい居住者への税や補助等のインセンティブづくりを行う。
- ・行政や経済界が一体となったシティ・プロモーションとビジネス支援サービスを、さらに充実させる。

第2章 「キタ新地」創生

(1) もてなしの「キタ新地」創生

21世紀の「水都・大阪」は、国内外から老若男女が集まる「集客観光都市」を目指すべきであり、そのためにはキタ新地を「もてなしの場」として活性化することで、観光資源として高いポテンシャルを有する「食文化」の振興を図るとともに、「水」商売の賑わいを取り戻すことが必要である。

大阪市が平成13年度に行なった調査によれば、大阪の食べ物に魅力を感じて来阪したと答えた人が国内ビジターの42%、国外ビジターの41%を占めており、いずれも第2位となっている。いかに大阪の「食文化」が観光資源として高いポテンシャルを持っているかがわかる。

「天下の台所」として大阪には、古今東西から多くの食材や産物が集まった。大阪の名物といえば、うどん、お好み焼き、たこ焼きを挙げる人も多いが、これらの食材をもとに、大阪の「食職人」が築き上げた「日本料理」こそが大阪の食文化の原点である。料理の味を決めるのは「水」。大阪の水が美味しかったからこそ、煮物・炊き物・汁物・お酒…といった大阪の「日本料理」が評価されたのである。従って、「水都の創生」は「大阪の食文化再生」にもつながる。

目下、ミナミでは大規模な道頓堀川の改修工事も始まり、水都としての装いも新たにしている。一方で、300年の歴史を有するキタ新地は約4,000店にもおよぶ料飲店が集中する日本屈指の繁華街であるが、目下の不況に閉店に追い込まれる店舗も多い。今こそ、「もてなしの場」としてのキタ新地を、行政の力ではなく、市民(町衆)の力で創生しなければならない。

第2章では、玄関口の大阪駅からキタ新地界限にかけて、人々が集い、賑わうまちづくり—町衆が主体となって活動するソフト戦略を提案する。

本章の提案のスタンスは、3つの“P”、すなわち、

- ①ポテンシャル…大阪の潜在的な魅力を最大限活用したソフトづくり、
- ②プロデュース…市民、行政、企業、学会等を巻き込んだ幅広いムーブメントを展開、
- ③パワー ………ポイントを絞り込み、エネルギーを集中させ、大阪再生の突破口を目指す。

具体策① 物語の舞台～キタ新地～

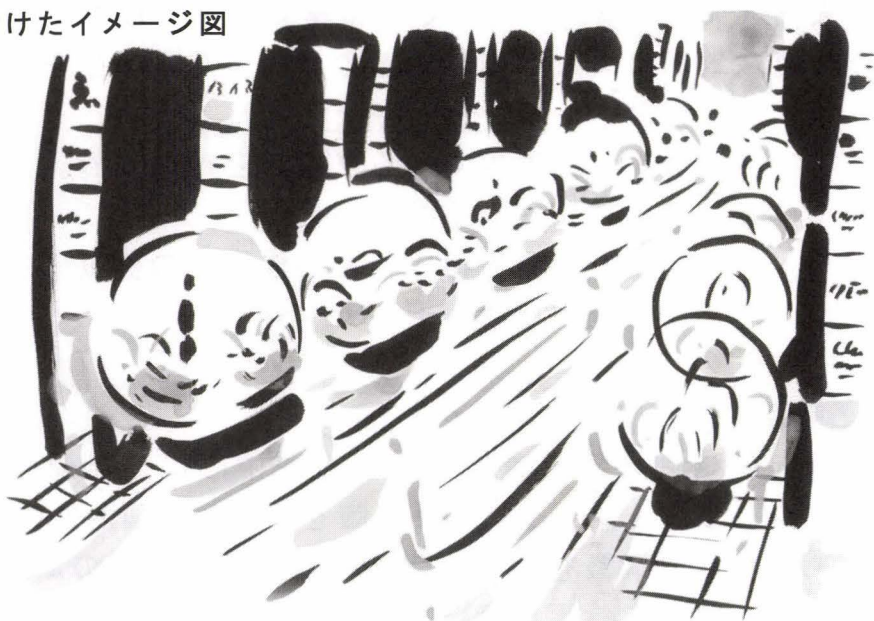
《新地本通りを噴水プロムナードに》

本通りは電線を地中化し、装いも新たになった。現在、設置されている配電盤の両サイドに「舟形」のポットを取り付け、「季節の花、緑」と「噴水」が「舟形」のポットの上に組み合わせられる。夜間はライトアップし、「花と噴水」が浮かび上がる。いろいろな「水かけ太郎」がいて、それぞれが花に水をかけているという連続した情景をつくる。これによってキタ新地全体が生き生きした統一の物語性を有することができる。

新地本通りは「舟形」の噴水が並ぶプロムナードとなり、まるで川のように見立てられる。在りし日の「しじみ川の趣き」がここによみがえる。



配電盤の両サイドに「舟形」の
ポットを取り付けたイメージ図



しじみ川に見立てた“本通り”

《キタの“水琴窟”》

水琴窟は日本の音文化の結晶であり偉大な遺産。したたり落ちる水が瓶の中で反響する音を楽しむ。賽銭を入れることで、投げたコインに応じて様々な音色が響く。キタに水琴窟を設置し、「水都・大阪」の名所とする。

《“しじみ川”の復活》

東洋のシェークスピアと言われる近松門左衛門の描いた「曾根崎心中」。その舞台になった“しじみ川”を2号線スエヒロ横から本通りまでの市道の一部に復元し、歴史的、文学的な名所とする。

《新地の南玄関「ガーデンブリッジ」に、花と噴水を》

ガーデンブリッジをキタ新地の南玄関と位置付け、花と噴水で演出。

《店舗による花と水の演出》

店の入り口に金魚鉢、水かめ、鹿おどし等を配し、水の都を演出。

具体策② 食の街おこし

《タウンプロデュース》

食のメッカづくりは、街おこし運動である。地域で活躍するNPOと経済界が連携し、食の街おこしを行う。

大福（大淀・福島）街づくり協議会と連携し、なにわ筋を中心とした大淀・福島地域に大人が楽しめる食の街づくり運動を展開する。

1) 食のベンチャー・キャピタル

市民、経済界によるグルメ店への投資。

2) プロデュース機能の強化

地元の企業も巻き込んだ協議会の設置。

情報発信とコンセンサス作り。

《大阪ミシュラン・ブック》

関西経済同友会会員企業のOLを中心に、話題のグルメ店を選出し、“ミシュラン・ブック”の大阪版を制作し、国内外に食のメッカ大阪のグルメショップ情報を発信。関西の食文化に造詣の深い各界の著名人(料理評論家、財界人、編集者)を審査委員に関西経済同友会でまとめる。

(2)「キタの歳時記」創生

水はその清純性が汚れを祓(はら)うために、古来より祭祀にあたっては欠くことができなかった。この「お清めの水」という意味に加えて、変身、再生、供養、お祝い等、多くの神事や信仰に利用されてきた。大阪の再生を水都創生に託し、「水都の日」を制定するとともに、水にまつわる年中行事を創生し、大阪の集客と活性化を図る。

具体策① 「水都の日」制定

「水都の日」を制定し、大阪再生の願いをかけるとともに、水にまつわる行事を毎年執り行う。

「水都の日」案

(第1案) 3月19日---第3回世界水フォーラム(2003年実施)の
大阪デイ開会式

(第2案) 3月22日---「国連水の日」

(第3案) 7月 1日---「海開きの日」

子供(大人もだが)の水難事故防止にも

府立・市立の小学校を休みとし、川や川辺の清掃、水泳大会等を実施することで、子供の頃から大阪が水都であることを意識づけるとともに、まちの美化に対する関心を植え付ける。

具体策② 平成のお水取り

「なにわの守護神」と呼ばれている堂島薬師堂の“お水取りの行事”を創生し、火よけ、お清め、厄除け、商売繁盛の年中行事とする（「水都の日」）。

《水の年中行事》

- ・ 薬師寺のお水取りの作法から始まって、「庄駟子」によって荷いあげられた「香水」が堂島薬師堂や「水かけ太郎」まで運ばれ、供えられるまでを、一連の美しく流れる儀式で表現。北新地のママさんをはじめ、多くの見物人が見守る中、荘重な声明と法螺の音に満ちた「聴聞」の儀式に沿って、全員が無病息災・商売繁盛を祈る。特製の香水入れ（竹製）によって、それぞれが持ち帰った香水がお店を清める。「春の呼び声」が聞こえてくる行事に。

《堂島薬師堂に着目した理由》

- ・ 北新地の中心にあり、また、近隣の商店主にもその認知度が高い。
- ・ 「なにわの守護神」とも呼ばれるほど由緒あるお堂である。
- ・ お堂の周囲に人工河川があり、水都創生のイメージにふさわしい。
- ・ 現在でも月参りや鬼追いイベントの際には、奈良薬師寺からお坊さんに来て頂く等、高名な奈良薬師寺との関わりが深く、高い注目を集めることが可能。



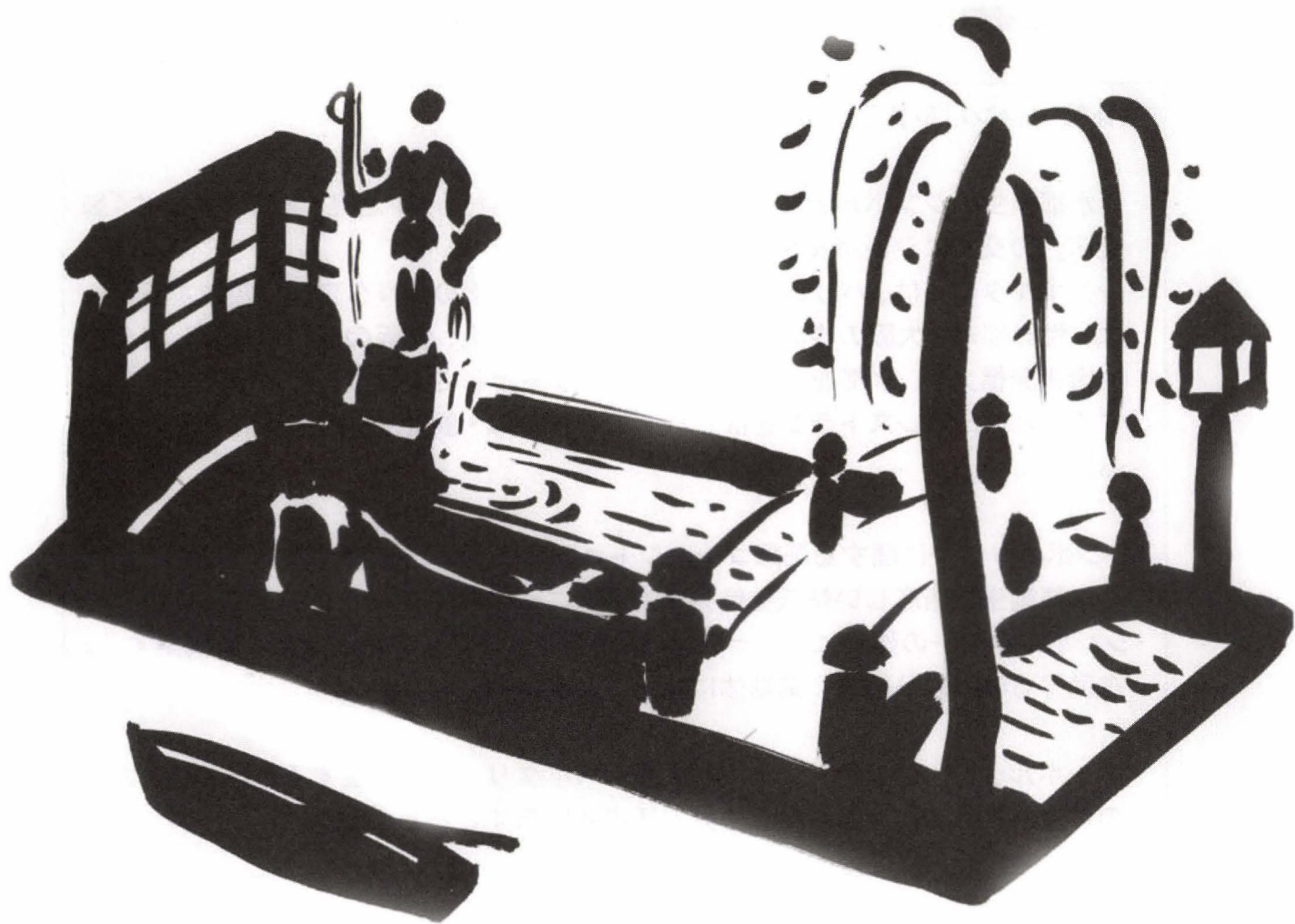
平成のお水取りの絵

具体策③ 縁結びの“水かけ太郎”

- ・ 人々の願いを叶える「不思議な力を持つ水」が古来より信仰の対象とされてきた。キタ新地の“しじみ川”のほとりに、仮称「水かけ太郎」を祀り、新地に集う人々の「良縁結び」、「商売繁盛」、「火難厄除」を願うとともに、水都キタ新地のシンボルとする。場所は、スエヒロ横の市道。
- ・ このデザインには昔のしじみ川風情（近松の曾根崎心中の舞台）を復活させたいと願い、舟入りの様子を再現している。時代の懐かしさを表現するために御影石等の黒色の素材を用いている（柳の木と水は本物を配する）。
- ・ 細い路地ながらも落ち着いてお参りできる参道。小橋の上からは浅い水面に映る「北新地」の灯を眺めることができる。
- ・ さらに、新地の通り抜けや裏路地にいたずら小僧ぽく隠れているいろいろな姿勢の「水かけ太郎」を設置。「太郎を探す会」等の話題づくりや新地の新キャラクターとして活用する。



“水かけ太郎”のポーズ



縁結びの“水かけ太郎”のデザイン

第3章 新水都創生シンボルタワー

中之島を含む大川沿いの一帯や大阪城周辺は、いわば「ハート・オブ・オースカ」と呼ぶべき地域であり、「水都・大阪」の創生を力強く牽引することが求められている。その具体策として、この地域に「水都・大阪」のシンボル創生を提案したい。このことは、隣接する御堂筋の国際ストリート化にも繋がっていくものと認識している。

具体策 シンボルタワー

- ・新水都創生のシンボルとして、大阪の心臓部にあたる「中之島」と背骨をなす「御堂筋」の交点にシンボルタワーを建設する。
- ・シンボルタワーは、パリのエッフェル塔やトロントのCNタワーに匹敵するような、世界都市・大阪の中心街に相応しい景観を整え、大阪のシンボルとしての高い情報発信力や、水都を一望する観光スポットとしての役割を兼ね備えるものとする（カフェやレストランをはじめミュージアム・展望台等の多目的施設を備える）。
- ・シンボルタワーに関する国際コンセプトコンペを行い、国内外の叡智を結集して、新水都創生に相応しい情報発信力のあるユニークなものに仕立て上げる。
- ・シンボルタワーの建設にあたっては、民間の資金を導入できる仕組みを構築する。市民ぐるみで取り組み、運動体になることが求められる。
- ・シンボルタワーの建設によって、大阪のバイタリティを再生するとともに、大阪の水都創生への並々ならぬ心意気を国内外に示すこととする。



第4章 「リバーフロント」創生

水によって育てられた「大阪」を再認識し、また水辺に対する関心の高まりを受け、河川に表を向けた空間にリ・デザインし、それに伴い新たな生活スタイルが創出される。

淀川から分岐し、大阪の中心部を流れる大川～安治川水系。この水系を「水都・大阪」のシンボルとなるモデル水系とし、そのリバーフロントを一定のコンセプトのもとに計画的・総合的に再生する。そのコンセプトは、歴史・文化の香りを漂わせながら、賑わいとうるおいのある親水空間の創出である。

(1) 大川～安治川水系 「リバーフロント」創生

具体策① 大川、堂島川、土佐堀川リバーフロントに魅力的な都心居住空間を

・現況のコンクリート製垂直護岸を緩傾斜型堤防へ逐次改善していくとともに、現況の河川と既存建物の間の空間（現況道路等）の上部を人工地盤により有効活用し、水とうるおいのある都心居住空間を創出する。

- ・川から見た時の美しい景観の形成。
- ・眺望がひらけ、水と緑のうるおいのあるランドスケープの創出。
- ・川辺は市民・観光客の集う親水空間に。
- ・人工地盤の上に低中層住宅を建設。都心人口の回復。
- ・住宅の1F部分はオープンカフェ、レストランなどの賑わいの空間。
- ・オープンスペースは憩いの空間。災害時の緊急避難場所にも活用。
- ・堤防を傾斜型にすることにより安全性が向上。



◇ 整備イメージ図 ◇

具体策② 安治川リバーサイドにリゾートタウンを

- ・水辺環境と一体となった面的広域整備を行い、水に親しめる美しい居住環境と集客機能を創出する。
 - ・周辺にはＵＳＪもあり、住・遊・癒が一体となった空間に。
 - ・安治川から水路を引き入れ、その水辺沿いには、リゾート調の潇洒な住宅やマンションを建設。マンションの部屋からは大阪湾の雄大な景色や素晴らしい夕陽が一望できる。
 - ・水路の中央部には蔵屋敷を復元し、観光名所に。
 - ・市民が集まる広場づくり（河川沿いの芝生と花によるグリーンベルト）。水辺の草花・小鳥たちが四季折々にうるおいを与え、風情を醸しだす癒しの空間に。
 - ・親水性が高く、川辺へのアクセスが容易な空間に。



◇ 整備イメージ図 ◇

(2) 事業促進のための手法および支援方策

具体策① 規制緩和の推進

- ・ 河川区域や公園区域において住宅・カフェ・レストラン・ショップを積極的に設置することが可能となるよう、河川法・道路法・緑地公園法等の見直しを行う（駐車場付置義務の免除等、条例の見直しを含む）。
- ・ 都心部で、ゆとりのある広さと高機能の設備をもった良質な住宅を求めやすい価格で供給できるよう、地区計画等街区レベルでの緩和措置に加え、個別プロジェクト単位でのボーナス容積制度を創設する（容積率の大幅な緩和）。

具体策② 地域景観協定の締結

- ・ 都市の魅力を測るものさしとして景観美は欠かせない。そのため地域と行政で地域景観協定を締結し、行政の強力な指導のもとで都市景観の保全を徹底する。
- ・ 建築物の統一基準設定、駐車場の地下移設、駐輪場の新設、電線地中化、洗濯物を屋外に干さない等。

具体策③ プロジェクトファイナンスの活用（PFI）

- ・ 公共の負担を軽減するとともに、民間の資金・能力を活用することとし、公共施設と民間施設の一体的整備型のPFI事業の導入を図る。
- ・ 民間主導による水のオープンスペース整備・維持活動を促進させるために、資金援助または税控除等のインセンティブを導入する。

具体策④ 行政の所掌部門の連携

- ・ 総合再生事業は、それぞれ個々の事業について所掌する行政のセクションが異なるが、総合的に実施されることが望ましいので、それぞれの分野間の円滑な連携の方策についての検討を要望する。

具体策⑤ 国際コンペ（IBA方式）の実施

- ・ リバーフロントを計画的に美しく、また大阪らしさも取り入れた空間形成を図るとともに、国内外へのPR効果を期待して建築の展覧会を兼ねた国際建築競技（ベルリンのIBA方式を参考）について検討する。

第5章 御堂筋の国際ストリート化

「水都・大阪」の創生にあたって、大都市を支える「背骨」となる御堂筋を魅力と風格溢れる国際ストリートに仕立て上げていく必要がある。幸いにも、御堂筋は、銀座の3倍もの長さを有する日本屈指の通りであり、国内外の人々を惹きつける魅力的なコンテンツを付加することで、世界有数のストリートになる可能性を持っている。

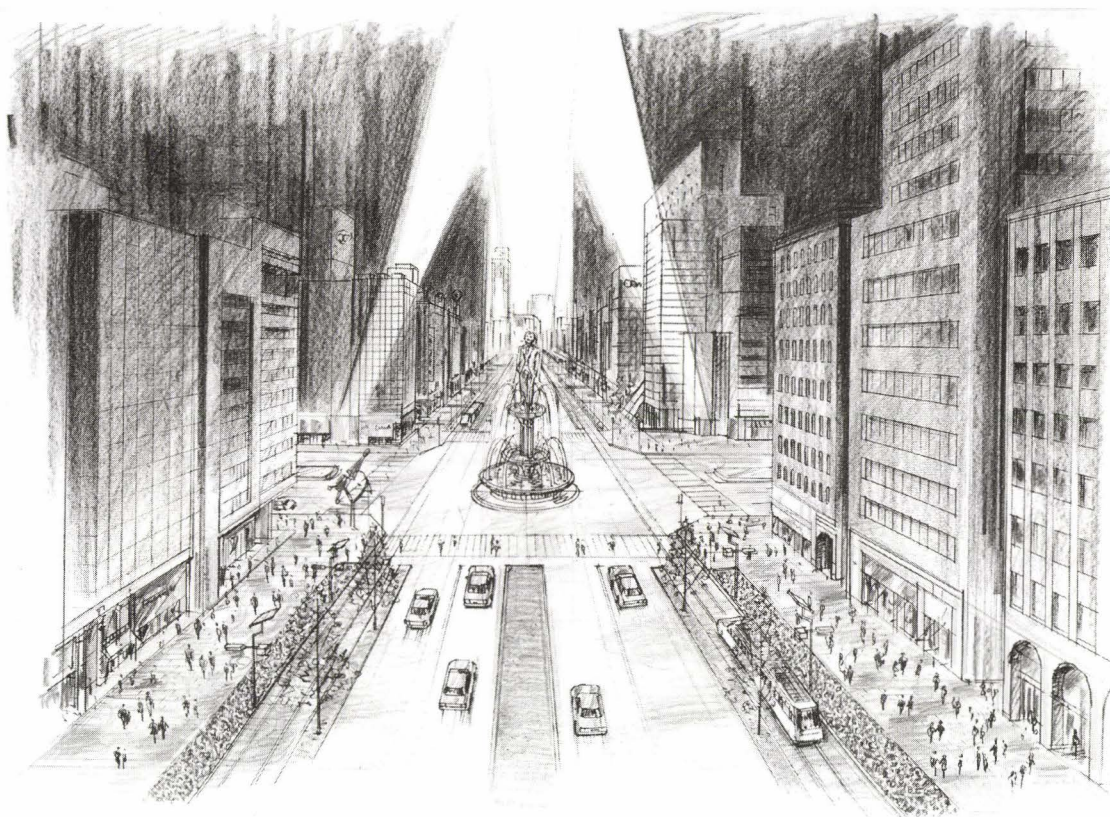
2010年のアジアを中心とする観光ビッグバンを見据え、ビジター獲得に向けた都市間競争が激化する中、御堂筋の活性化戦略は大きな意味を持つ。

世界の人々が、「水都・大阪」と言えば、真っ先に「御堂筋」を連想できるような、ショッピングや食事の楽しみ、知的刺激をそそられるような通りにしなければならない。そのためには、美しい都市景観の形成、人や環境にやさしいアメニティの創造、芸術や文化の香り等を戦略的に創出することで、御堂筋が持つポテンシャルを開花させなければならない。

また、御堂筋は、ビジネス面における活力をあわせ持ったストリートとして発展させるべきであり、国際的な企業やホテルが進出したくなるような都市インフラの整備（高さ制限の見直し等）が必要である。

具体策① ロータリー型交差点に噴水を

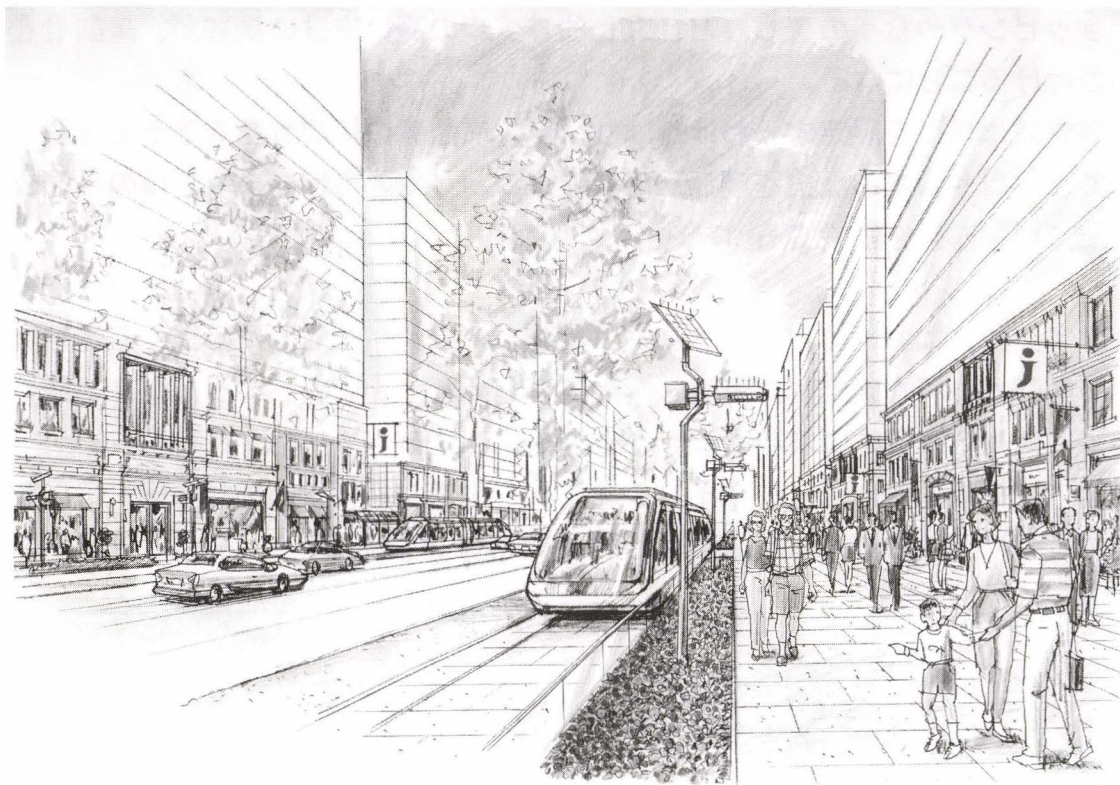
- ・ 御堂筋には70年以上の歴史に培われた風格がある。その全長は4.5kmという非常に長い直線道路であるが、この長い通りにアクセントをつければ、風格にプラスアルファしたものを観光客に訴求することが可能である。
- ・ 第3章で提案したシンボルタワーは、御堂筋の北域に位置するが、ブランドショップが並び、人々が多く集まる御堂筋南域のアクセントとして、ロータリー型交差点の設置を提案する。その中心部には、「水都・大阪」を象徴するような大きな噴水を配置し、観光スポットとして、また、人々の憩いの場として整備する。
- ・ このロータリーは、噴水を前景に、ブランドショップ街や文化的施設等をサイドに、シンボルタワーを真正面に捉えることができるポジションにあるため、御堂筋を紹介するのに相応しい場所となり、記念撮影スポットとして多くの観光客に利用されることになる。



夜も明るく、光と水と花の御堂筋

具体策② 観光ＬＲＴ（低床式路面電車）の導入

- ・ 御堂筋は、車の通行量が多いため渋滞も多く、人や環境に優しいまちとはいえない。第6章では、環境先進都市宣言について提案するが、御堂筋も人や環境に優しいまちを目指すべきである。
- ・ 初めて訪れる人にもわかりやすく、安全で楽しく、しかもバリアフリーである交通手段として、低公害のＬＲＴを運行する。停留所の間隔は、短い距離間隔に設定し（４００m程度）、来訪者の利便性の向上を図る。
- ・ 御堂筋へのＬＲＴ導入をモデルケースとして、将来的には、水上交通体系とのネットワーク化や、難波宮・大阪城等他の観光スポットへの回遊等、広域的な運行も視野に入れる。ヨーロッパの主要都市（仏のストラスブール、独のフライブルク等）がＬＲＴの導入により、都心を甦らせ活性化に結びつけている事例は大いに参考にすべきである。
- ・ また、通行料制の導入等により、通過目的の車両の御堂筋流入を極力抑えとともに、地下駐車場や駐輪場を整備する等環境に配慮したまちづくりを行う。



世界中・日本中のブランド品が全て揃っている街
人が歩いて楽しめる御堂筋

具体策③ 世界有数のブランドショップ街

- ・ 外国人旅行者への日本の観光魅力に関するアンケート調査において、いつも上位にランキングされるのがショッピングと食事である。
- ・ アジアを中心とする観光ビッグバンを見据え、海外のビジターを取り込むためには、御堂筋を世界有数のブランドショップ街に仕立て上げることが必要である。世界のブランドショップが一堂に会し、また、日本のブランド（匠の技からハイテクまで）を世界に向けて情報発信する場として整備する。
- ・ そのためには、御堂筋に進出するブランドショップに対する優遇措置（税の減免、補助金等）や、大阪府・市、経済界による積極的な誘致活動が必要である。

具体策④ 芸術・文化が香る御堂筋に

- ・ 大阪は古くから繊維のまちとして知られているが、大阪の伝統文化、感性の高さを強力に発信する場として国内外の現在までの織物の変遷を集積した「国立織物博物館」を創設し、繊維・ファッション関連の国際交流の拠点とする。ショッピングや食事の楽しみと、文化的レベルの高い施設の調和が、来訪者を惹き付けることになる。
- ・ 御堂筋に場所を限定するわけではないが、来訪者の知的刺激をそそる施設として、世界や日本の歴史を学び、感じ取ることができる世界最大規模の「国立大歴史博物館」を創設する。
- ・ 御堂筋沿いにおいて、トピアリー（植物を人工的、立体的に形づくる造形物）の国際コンペを定期的実施し、受賞作を「水都・大阪」のシンボルと認定して、河川敷公園等に常時展示する等のインセンティブを提供する。
- ・ 国内外の来訪者に優しいサインシステムを整備する（4カ国語標記：日・英・中・韓）。サイン自体もひとつのアートとしてPRする。

具体策⑤ 大阪市都市再生本部による活性化戦略と高さ規制の撤廃

- ・ 御堂筋の国際ストリート化を目指した取り組みにあたっては、全体ビジョンを見据えた計画的な開発が必要である。その際には、美しい都市景観づくりや、安心・安全なまちづくりといった環境整備がベースとなる。
- ・ そのために、大阪市都市再生本部が一元的に御堂筋の活性化戦略を計画・実行することを提案する（縦割り行政の弊害を阻止）。
- ・ 空洞化する大阪都心を再生するためには、御堂筋とその周辺地区に、国内外の資力と叡智を取り込むことで、流出超過に陥っていた中枢機能を呼び戻すことが必要である。
- ・ その一環として、大阪市都市再生本部は、進みつつある容積率の上乗せに加えて、御堂筋又はその周辺地区における高さ制限の見直しを実施すべきである。

第6章 環境先進都市宣言

第1章から第5章にかけて、「水都・大阪」の創生を軸とする大阪の活性化に資する具体策を提案してきたが、本章においては、「水都・大阪」創生のベースとなる環境と調和した持続可能な循環型社会の実現に向けた具体策について提案する。環境を意識した取り組みを、将来のこととして捉えるのではなく、施策を積み重ね、実行していくことが重要である。

そのために、大阪は、「水都・大阪」の創生を強力に実行していく意志表示として「環境先進都市宣言」を行うべきである。

環境先進都市の実現に向けた具体策として、北ヤード地区における「都心型環境共生都市モデル」の構築、水質環境の改善、「水都・大阪」創生の主役となる市民の環境意識の向上について提案を行う。

具体策① 水を活かした「都心型環境共生都市」モデルの構築～北ヤード地区～

- ・水や緑を活かし、自然環境を利用した環境負荷の少ないエコロジカルな環境を提供するとともに、親水性をテーマとしたアメニティ効果の高い都市基盤整備を行う。
- ・緑地と風の道を考慮した水路整備、地盤への透水性や打ち水効果等により、水の気化熱や風を利用して、まち全体の冷却効果を高める。また、まち全体のエネルギーの高効率利用、未利用エネルギーの利用、資源リサイクル等、新しいまちのインフラ機能としてエコロジカルな技術が組み込まれた基盤整備を行う。
- ・「水都・大阪」に相応しい「公園」整備として淀川水系を髣髴とさせる水路や水面を創出する。また滝・噴水等の水と橋により演出された掘割沿いにビジネス・商業・教育・居住等多様な機能を備えた「アクアモール」を整備する。
さらに、民間スペースにおいても、公共スペースと連携を図ることにより、水路や歩行者道整備を誘導する等、日常的に水を感じるオープンスペースづくりを行う。
- ・様々な環境技術が利用された建物の整備、リサイクルへの取り組み等に対して税の減免や補助金等のインセンティブづくりを行い、エコロジカルなまちづくりを目指す。

具体策② 水質環境の改善

- ・「水都・大阪」の創生に向けて、水質環境の改善は最重要課題の一つである。水質を改善することにより、水辺の賑わいづくりや都心居住の促進、或いは「水都・大阪」のPR効果も期待できる。

〔大阪の水質に関するアンケート調査—the0123 引越文化研究所レポート〕

- ・非常に水が汚い町 9 % ・水の汚れが目立つ町 49 %
- ・水がきれいな町 6 % ・どちらとも言えない 36 %

※全国ワースト2位（最下位は埼玉）

- ・下水道の完備および貯留管の整備

寝屋川流域における汚水の河川流出を防止する。上流域の下水道を完備し、それでも防ぎきれない汚水の貯留管を地下に整備する。貯留管の施設は、直径5m程度・延長約50kmを計画。

- ・河川浄化物の設置

川底に河川浄化物を設置し、水中での有機物除去分解を行う。

- ・噴水によるアメニティの演出と水質浄化

噴水や光の導入により個性的な魅力づくりを行い、既存施設の集客力アップや新たな集客施設の整備を図る。

（例）大阪城の堀に世界最大級の噴水を設置。噴水は、夜間決められた時間に音楽やライトアップにより変化するショー形式のものとする。

具体策③ 市民の環境意識の向上

- ・「水都・大阪」創生の主役は市民である。市民の環境意識を醸成することが、「水都・大阪」創生のベースとなる。
- ・大阪府内の小中学校に環境教育を義務づけ、花・緑・水および光（エネルギー）への関心を高める。環境分野に携わる行政や企業の人材が講師を務める（大学等における一般市民対象の環境講座の設置も検討）。
- ・「水都の日」は、府立・市立の小学校を休校とし、川や川辺の清掃等ボランティア活動を推奨する（第2章でも提案）。
- ・エネルギー供給施設、廃棄物処理施設、上下水道処理施設等の環境インフラを対象とした視察会を実施し、「水都・大阪」市民としての意識醸成を図る。
- ・市民投資型の花の博覧会（安藤忠雄氏提唱の河川博覧会）や樹木の里親制度等を実施して、市民の環境意識の向上を図る。

第7章 プロデュース戦略

「水都・大阪」の創生を軸とした、魅力と活力に溢れる「1500年都市大阪」を実現するためには、第1章～第5章に記されている重点地域を絞ったハード・ソフト施策とともに、それらを結びつけるネットワークの構築や、「水都・大阪」を国内外にPRするための情報発信やイベントといった、総合的なプロデュース戦略が重要である。

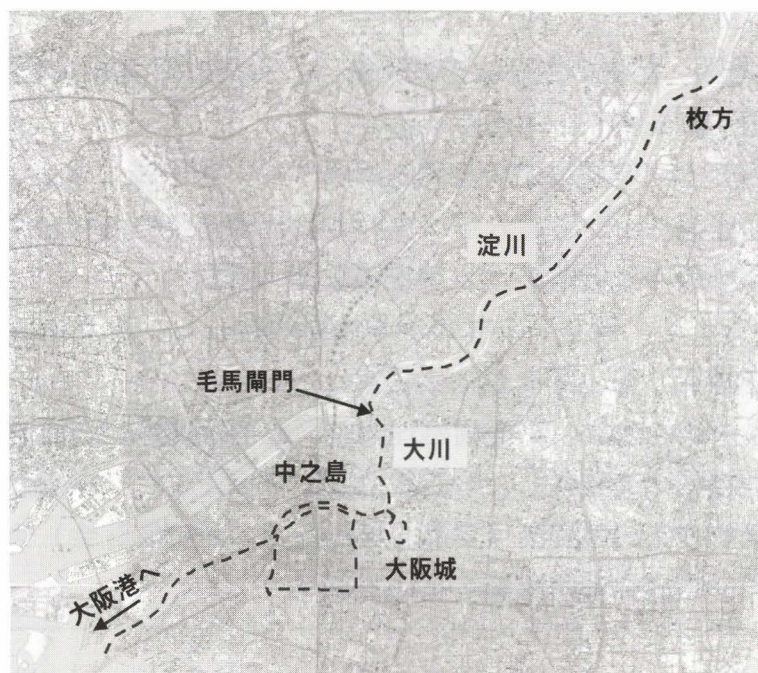
(1) ネットワークの構築

水上交通体系の整備を行うとともに、陸上交通体系とのネットワークを強化することにより、「水都・大阪」の相乗的な魅力の向上を図る。

具体策① 水上交通体系の整備

- ・ 陸上交通体系との接点となる場所に魅力ある船着場を整備する。
- ・ 新旧淀川を船が航行できるよう整備を行い、30石船が航行した往年の舟運を復活する。この舟運は、「水都・大阪」の強力な観光資源となることは勿論のこと、通勤・通学の足として、或いは物資の輸送等にも活用可能にする。
 - ・ 短期的には……枚方～八軒家浜
 - ・ 中長期的には…琵琶湖～京都～枚方～中之島～大阪港
- ・ 八軒家浜の復元。
- ・ 水陸両用車の導入の検討。

◇ 舟運ルート概要図 ◇



具体策② 橋梁の架け替え

- ・水上交通の大きなネックとなっているのが低い橋梁である。円滑な水上交通を可能とするため、まずは堂島大橋の架け替えを実現する。中長期的には、エアードラフト（水面からの部分）を3mとした場合、19の橋梁の架け替えが必要となる。

具体策③ 陸上交通体系の整備

- ・船着場の整備に併せて、船着場と陸上交通体系のネットワークを図るため、陸上部分の整備を行う。
- ・歩行者導線、公共交通機関（バスを含む）との連携を図り、陸上の歴史文化等の施設の間でスムーズな回遊ができるようソフトの整備を行う。

具体策④ 利便性を高める各ソフトの検討

- ・各施設の共通利用券・割引券、商業施設の共通ICカード、利用券・割引券、地域振興券、案内所の充実等、観光客の利便性の向上を図るソフトを充実させる。

（２）情報発信・イベント

国際集客都市を目指す大阪にとって、「水都・大阪」＝魅力と活力に溢れるまち、というイメージを国内外の人々に知ってもらうことがまず重要であり、そのためにも情報発信の強化やイベント戦略が大切である。

具体策① 手塚治虫作「どついたれ」映画化

- ・戦後の大阪を舞台に、厳しい時代をたくましく生き抜いた企業家をモデルにした作品。虫プロダクションの倒産を扱った実話に基づいて構成。「水都・大阪」のシーンが随所にちりばめられている。
- ・この作品を「大阪」で映画化することで、「水都・大阪」を強くアピールするとともに、閉塞感に覆われた人々にチャレンジ精神・ベンチャー精神を訴求する等、元気の出るエールを贈る。
- ・この映画の実現に取り組んでいる、映画「どついたれ」勝手連を支援するとともに、官民あげて映画の実現に取り組み、大阪（大阪生まれの手塚治虫）を世界にPRする。



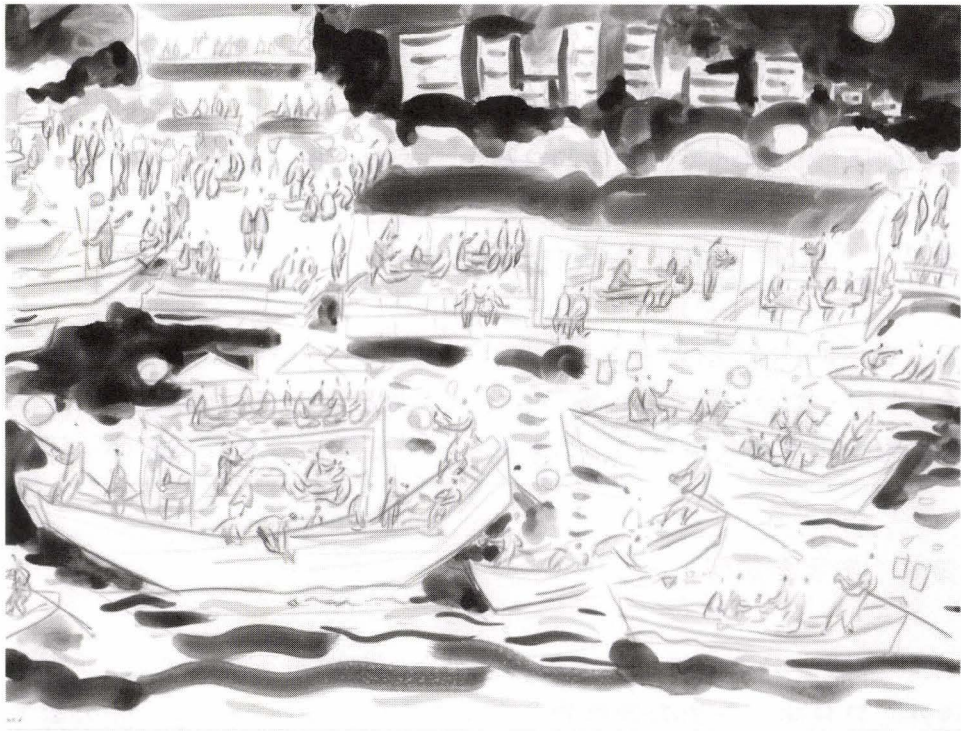
具体策② 年間を通じたサイクルイベント

- ・大阪の水辺を舞台とした、季節ごとにテーマを持ったイベントを実施する。
（春：花、夏：祭り、秋：文化、冬：光）
- ・桜の通り抜け・天神祭り・水都祭・平成淀川花火大会等の既存の川沿いイベントとの連携も視野に入れる。
 - ・毛馬桜ノ宮公園の桜（約4,700本）や造幣局の桜を演出する水上イベント
 - ・天神祭に御堂筋パレードの要素を取り入れ（船の装飾、イベント性の向上等）、観る人も楽しめるイベントにする（天神祭フロードシップパレード）。

具体策③ 観月流し(川施餓鬼)

- ・ 大阪の水運の拠点「八軒家」で、中秋の名月を楽しむ「観月流し」を創生する。
- ・ 八軒家の川辺、船上から、願い事、歌、供養の施餓鬼を川に流し、観月を楽しむ祭典。

伝法の正蓮寺で行っている川施餓鬼を参考に



具体策④ ワールド リバー フェスティバル

- ・ 海外の「水の都」と呼ばれる都市が集う国際色豊かなフェスティバルを中之島で開催する。
 - ・ 大川～安治川水系：各国の民族色豊かな船を観光船として運航
 - ・ 中央公会堂：音楽会と「水の都」写真展を開催
 - ・ 中之島公園：各国の特色ある食べ物を屋台で提供

具体策⑤ 「水都・大阪」橋物語

- ・ 嘗ての「水都・大阪」の繁栄に大きな役割を果たした「橋」。その「橋」にまつわるエピソードを一般公募し、コンテストを開催。
- ・ 優秀作品の舞台化・映画化、応募作品の展示会等を通じて、「水都・大阪」橋物語を国内外にPRする。

具体策⑥ 水辺のポテンシャル向上

- ・ 水辺のポテンシャルを向上させるため、中之島・大川周辺施設への光の導入（香港のビル群のイルミネーション等をイメージ）や、3Dのホログラムを用いた水面上の映画館の創出等、個性的な魅力づくりに取り組む。

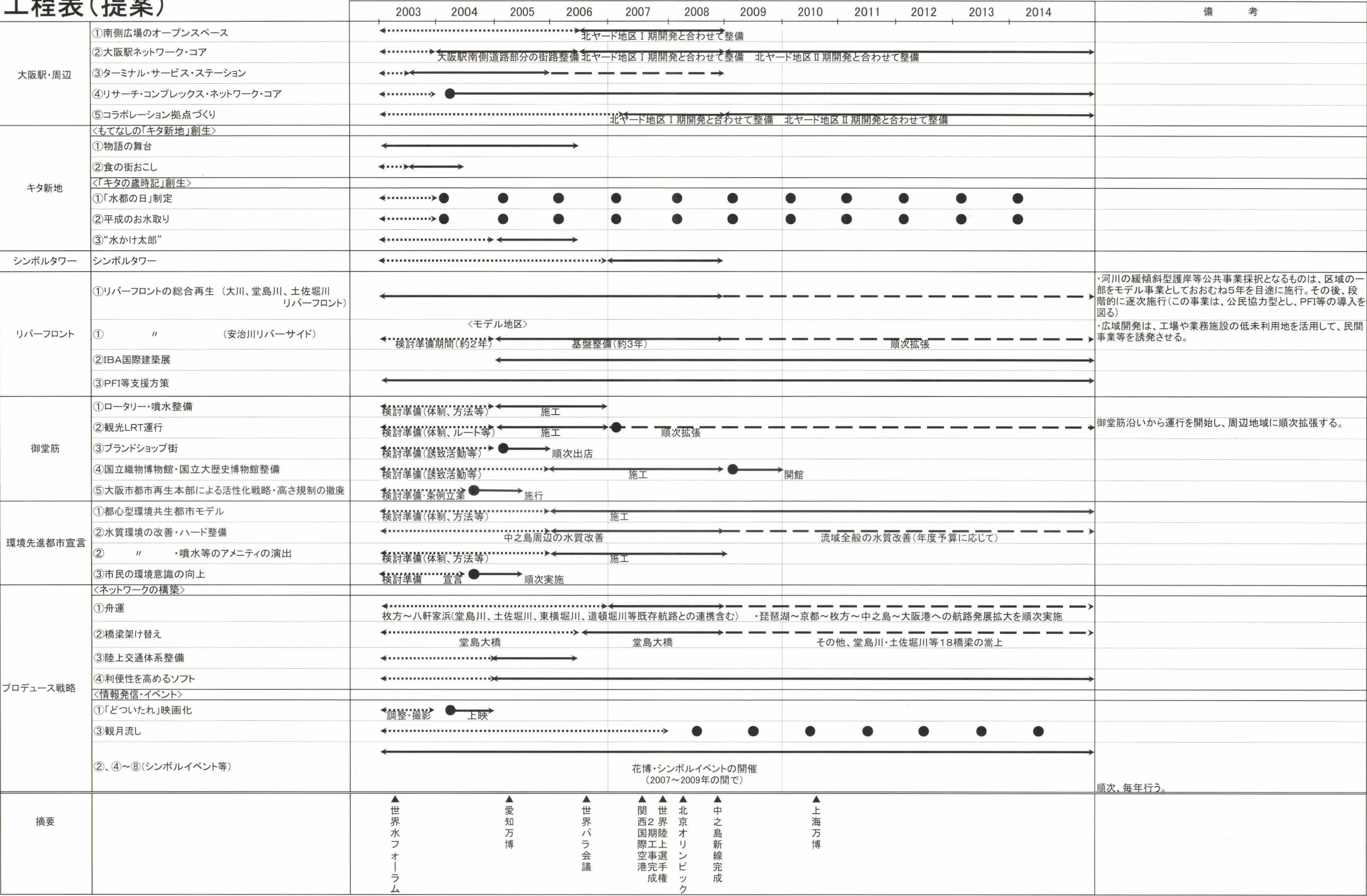
具体策⑦ 「水都・大阪」縦断ウルトラクイズ

- ・ USJと湊町間を運行していた「オクトパス」や既存の船を活用し、大阪を周遊する「水都・大阪」縦断ウルトラクイズを期間限定で開催。橋や川、大阪の歴史・文化に因んだクイズを行い、大阪のイメージアップや情報発信を図る。

具体策⑧ 市民参加型イベント

- ・ 「水都・大阪」の創生には、市民の盛り上がりが不可欠である。「水都・大阪」を国内外にPRするための効果的な市民参加型のイベントを一般公募する。
- ・ イベントの運営にあたっては、市民の資金を導入できる仕組みを構築する（特別目的会社・SPCの設立、個人向け公募地方債等）。

工程表(提案)



平成14年度 「水都・大阪」委員会 活動状況

平成14年

- 6月13日 正副委員長会議
「「水都・大阪」委員会の本年度の活動方針について」
- 7月25日 「天神祭 船渡御」観覧会
- 7月30日 第1回講演会・常任委員会
「橋を通して見た大阪の都市発展史」
講 師 大阪市計画調整局 理 事
(財)大阪市都市工学情報センター 理事長
松 村 博 氏
- 9月 5日 第2回講演会・常任委員会
「巡り歩ける都市「水都・大阪」の可能性」
講 師 建築家 竹 内 晶 洋 氏
- 9月19日 正副委員長会議
「テーマの絞り込み等」
- 10月 8日 正副委員長会議
「テーマの絞り込み等」
- 10月23日 第3回講演会・常任委員会
「移ってきたい、住みたい都市 ～港区のチャレンジ～」
講 師 東京都
港区長 原 田 敬 美 氏

分科会テーマおよび主査会社

第1分科会：花と緑・光と水

（今 井 武 副委員長；関西電力 取締役）

第2分科会：大阪駅（北ヤード・南側）

（山 下 健 一 副委員長；大林組 副社長）

第3分科会：中之島、大川

（佐 藤 茂 雄 副委員長；京阪電気鉄道 社長）

第4分科会：ソフト

（鳥 井 信 吾 副委員長；サントリー 副社長）

第5分科会：都心居住、イベント

（南 部 裕 一 副委員長；まちづくりシステム 社長）

※10月30日以降、主査会社会議、主査会社スタッフ打ち合わせ会を合計8回開催

※その内、1月30日の主査会社スタッフ打ち合わせ会は、

大阪市ゆとりとみどり振興局 理 事 永 田 兼 一 氏

文化集客部企画調査課長代理 芳 田 隆 氏 との意見交換会

平成15年

1月30日 正副委員長会議

「分科会報告等」

3月18日 常任委員会

「提言（案）の最終審議」

3月26日 常任幹事会・幹事会にて

提言『水都・大阪の創生～1500年都市の骨格～』（案）
を報告

4月 4日 提言『水都・大阪の創生～1500年都市の骨格～』

を記者発表

分科会別	活動内容
------	------

第1分科会：花と緑・光と水（今井 武 副委員長；関西電力 取締役）

- | | |
|--------|---|
| 11月11日 | 第1回ワーキング
基本コンセプトの整理、提言案のブレインストーミング |
| 12月25日 | 第2回ワーキング
懇話会および主査会社スタッフ打ち合わせ会（11/28開催）結果報告、
提言テーマ絞り込み |
| 1月17日 | 第3回ワーキング
提言案作成、意見交換 |
| 1月27日 | 第4回ワーキング
主査会社スタッフ打ち合わせ会（12/19、1/21開催）結果報告、
提言案作成 |

第2分科会：大阪駅（北ヤード・南側）（山下 健一 副委員長；大林組 副社長）

- | | |
|--------|---|
| 11月20日 | 第1回ワーキング
これまでの活動と今後の進め方、対象地域現状および関連資料説明、
意見交換 |
| 12月16日 | 第2回ワーキング
大阪駅における「水都・大阪」のあり方について、提言骨子の検討 |
| 1月16日 | 第3回ワーキング
提言骨子（案）作成、意見交換 |

第3分科会：中之島、大川（佐藤 茂雄 副委員長；京阪電気鉄道 社長）

- | | |
|--------|--|
| 11月27日 | 第1回ワーキング
全体的なイメージづくり・エリアコンセプト |
| 12月17日 | 第2回ワーキング
各メンバーのコメントおよびそれに基づくブレインストーミング |
| 1月17日 | 第3回ワーキング
中之島・大川分科会まとめ（案）
— セントラル・リバー・パーク構想 — |

第4分科会：ソフト（鳥井 信吾 副委員長；サントリー 副社長）

- | | |
|--------|----------------------------------|
| 11月28日 | 第1回ワーキング
提言の方向についてのブレインストーミング |
| 12月 4日 | 福島天満宮ヒアリング（スタッフのみ） |

- 12月9日 第2回ワーキング
北新地エリア視察会
ゲスト 北新地社交料飲協会
理事長 河 口 貴 賦 氏
- 12月16日 福島エリア視察会
ゲスト 大淀・福島街づくり協議会
会 長 松 下 俊 一 氏
- 12月25日 第3回ワーキング（スタッフのみ）
具体的提言案作成と調査
- 1月22日 大阪市建設局ヒアリング
管理部路政課
第一路政係長 大 谷 雅 人 氏
土木部工務課
工務係長 塚 本 修 氏
土木部交通安全施設課
主 査 西 平 平三郎 氏
- 1月23日 第4回ワーキング
提言案の検討・討議
- 2月4日 毎日新聞社ヒアリング（スタッフのみ）
人事・総務部副部長委員 大 木 雄 資 氏
- 2月10日 堂島薬師堂奉賛会ヒアリング（スタッフのみ）
(株)京松 代表取締役 山 田 金 三 氏
山 本 弘 澄 氏
堂島アバンザ管理(株)ヒアリング（スタッフのみ）
取締役総務部長 安 田 義 幸 氏
- 2月21日 法相宗大本山薬師寺ヒアリング（スタッフのみ）
修験咒師本部財務長 藤 田 裕 基 氏
- 3月6日 堂島奉賛会打ち合わせ（スタッフのみ）

第5分科会：都心居住、イベント（南 部 裕 一 副委員長；まちづくりシステム 社 長）

- 11月20日 第1回ワーキング
資料に基づく方針の自由討議
- 12月11日 第2回ワーキング
主査会社スタッフ打ち合わせ会（11/28 開催）結果報告、コンセプト
ワーク、提言内容の骨子を討議
- 1月20日 第3回ワーキング
主査会社スタッフ打ち合わせ会（12/19 開催）結果報告、提言内容の
最終討議

平成14年度「水都・大阪」委員会 常任委員会名簿

※2003年3月31日現在

(敬称略・順不同)

委員長	堀井 良殷	大阪21世紀協会	理事長
副委員長	篠崎 由紀子	都市生活研究所	社長
	柴田 俊治	朝日放送	会長
	山下 健一	大林組	副社長
	佐々木 廣年	環境開発研究所	会長
	池辺 忠男	UFJ総合研究所	常勤監査役
	村上 謙一郎	清水建設	顧問
	吉野 国夫	ダン計画研究所	社長
	永原 義夫	王建工業	社長
	間瀬 茂	日本政策投資銀行	関西支店長
	早瀬 萬里子	クロ・クリエイティブ・インターナショナル	代表取締役
	鳥井 信吾	サントリー	副社長
	佐藤 茂雄	京阪電気鉄道	社長
	辰村 裕司	西日本電信電話	常務大阪支店長
	光山 恵治	汎建築設計事務所	代表者
	鴻池 忠彦	鴻池運輸	副社長
	野村 卓也	スーパーステーション	社長
	池田 靖忠	西日本旅客鉄道	常務執行役員
	堀田 修二	鹿島建設	取締役関西支店副支店長
	スティーブ 岩村	監査法人トーマツ	参与・米国公認会計士
	今井 武	関西電力	取締役
	南部 裕一	まちづくりシステム	社長
常任委員	江川 寿夫	けいはんな	副社長
	越智 常雄	読売テレビ放送	常務
	鞍田 暹	テレビ大阪	社長
	小西 幸雄	日産建物管理	社長
	品川 良一	日本銀行	大阪支店副支店長
	新堂 友衛	大阪市信用金庫	理事長
	園田 善一	エヌ・ティ・ティ・ドコモ関西	社長
	濃人 賢二	帝国ホテル	専務大阪総支配人
	前田 一	エフエム大阪	社長

スタッフ	住本 浩美	都市生活研究所	主任
	小関 道幸	朝日放送	コンテンツディビジョン報道情報局局次長
	沢田 裕美子	大林組	本店開発企画部課長代理
	大西 二州	大林組	本店開発企画部課長代理
	森澤 五郎	環境開発研究所	大阪事務所副所長
	美濃地 研一	UFJ総合研究所	研究開発本部地域・環境室主任研究員
	森口 勉	清水建設	関西事業本部企画部長
	全田 和也	日本政策投資銀行	関西支店企画調査課主査
	田上 香江	クロ・クリエイティブ・インターナショナル	秘書
	佐々木 洋三	サントリー	大阪秘書部秘書役
	向井 寛行	京阪電気鉄道	経営統括室部長
	谷口 智之	京阪電気鉄道	中之島新線建設室工事担当係長
	有村 英樹	西日本電信電話	総務部企画担当課長
	三輪 幸夫	汎建築設計事務所	副所長
	鹿内 竣一	鴻池運輸	海外担当重役付部長
	田崎 友紀子	スーパーステーション	副社長
	島田 章義	西日本旅客鉄道	開発本部開発グループ
	石橋 勝	鹿島建設	営業部次長
	橋本 徳昭	関西電力	土木建築室土木調査グループチーフマネジャー
	北村 耕一	関西電力	環境室環境企画グループマネジャー
	横川 晋太郎	関西電力	環境室環境企画グループ
	正岡 正淑	まちづくりシステム	取締役事業企画部長
代表幹事スタッフ	杉本 哲雄	まちづくりシステム	調査設計部長
	中野 真由美	まちづくりシステム	調査設計部調査設計課
	辻本 克己	西日本電信電話	総務部企画担当主査
事務局	村田 省三	アートコーポレーション	専務
	萩尾 千里	関西経済同友会	常任幹事・事務局長
	梅名 義昭	関西経済同友会	企画調査部部長
	松尾 康弘	関西経済同友会	企画調査部副部長
	宮下 貴広	関西経済同友会	企画調査部
	柳川 菜穂	関西経済同友会	企画調査部

水 都 ・ 大 阪 の 創 生

～ 1500年都市の骨格～

平成15年4月発行

発行者 社団法人 関西経済同友会

常任幹事 萩 尾 千 里
事務局長

〒530-6691 大阪市北区中之島6丁目2番27号
中之島センタービル28階

電話 (06) 6441-1031

印刷所 ビジネスブティック

インターネット・アドレス <http://kdoyukai.on.arena.ne.jp/>

